

日本貝類学会令和7年度大会(東京) プログラム

会期:2025年5月17日(土)・18日(日)

会場:東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス

■5月17日(土)

9:00 受付開始(1Fロビー内)

会場: 口頭発表(9:50~12:15, 15:00~18:00) 場所:1407 教室(4F)

ポスター発表(コアタイム 13:00~15:00) 場所:ローズホール(4F)

展 示 日本貝類学界最後の巨人 奥谷喬司先生の足跡 場所:ローズホール(4F)

懇親会(18:00~20:00) 場所:ローズホール(4F)

9:50~10:00 開会あいさつ

セッション1

10:00~10:15 O-1 北海道太平洋岸における食用ツブ類の地域銘柄と分類学
栗原康裕○・高橋昂大(道総研栽培水産試験場)・深井佑多佳(道総研釧路水産試験場)

10:15~10:30 O-2 南西諸島における潮間帯貝類群集の地理的変異
木下翔太郎○・新垣誠司(九州大・天草臨海実験所)

10:30~10:45 O-3 2023~2024年に岩手県海域で確認された南方系貝類
寺本沙也加○1・早川 淳2・大土直哉2・岡部 聖1・高橋一成3(1 岩手県水産技術センター, 2 東大大海研 国際・地域連携研究センター, 3 広田湾漁協あわび種苗センター)

10:45~11:00 O-4 2024年勢水丸研究航海により遠州灘で採集された注目すべき貝類
木村昭一○・木村妙子(三重大院・生物資源)

11:00~11:15 休憩

セッション2

11:15~11:30 O-5 絶滅に瀕する島嶼陸産貝類の保全に向けた貝食性外来種防除技術の開発:アジアベッコウを中心とした事例
平野尚浩(琉球大学 理学部)

11:30~11:45 O-6 国内外来種ヤエヤマドボタルの捕食によるアマノヤマタカマイマイの野生絶滅の危機と野外レフュージアの創出に向けた保全技術の開発
元陳力昇○・森英章(自然研)

11:45~12:00 O-7 スクミリンゴガイ *Pomacea* spp.が淡水貝類群集に与える影響
馬場雄司○(東北大学大学院・生命科学研究科)・石井康人(東北大学大学院・生命科学研究科)・上地健琉(マリノリサーチ株式会社)・千葉聡(東北大学・東北アジア研究センター)

- 12:00~12:15 O-8 屋久島の低地水田跡で見出されたハベマメシジミ *Euglesa* sp.
澤田直人○(東京大学)・小西祐伸・齊藤匠(Vrije Universiteit)・家山博史(四国貝類談話会)
- 12:15~13:00 昼 食
- 13:00~15:00 ポスター発表コアタイム(奇数番号)
- セッション 3
- 15:00~15:15 O-9 組織学・トランスクリプトームから得られたムカデミノウミウシ-褐虫藻共生機構の統合的理解
溝端秀彬○・富田憲司・米澤遼・稲橋京史郎・井原一生・小川翔太郎・スミスアシュレイ梨花・宮下梨花・林健太郎・平松優花・劉冠廷・梁堅誠・木下滋晴(東大院・農)・吉武和敏(北里大・海洋)・浅川修一(東大院・農)
- 15:15~15:30 O-10 *Plakobranchnus ocellatus* の炭酸脱水酵素の探索と機能の予測
三石康生○1・永野惇 2,3・前田太郎 2(1 慶應義塾大学環境情報学部, 2 慶應義塾大学先端生命科学研究所, 3 名古屋大学生物機能開発利用研究センター)
- 15:30~15:45 O-11 海洋酸性化はヒザラガイの視覚に対して二重の影響を及ぼす ~GABA_A 受容体の応答改変と石灰質レンズの白濁化~
松本凌○1・滝山直人 1・今孝悦 2(1 海洋大・海洋科学技術研究科, 2 海洋大・海洋環境科学部門)
- 15:45~16:00 O-12 ホタテガイの水温変化に対する遺伝的応答
山崎友資○・河合総一郎(公益財団法人 東洋食品研究所)
- 15:00~15:15 休 憩
- セッション 4
- 16:15~16:30 O-13 シロスソカケガイ属腹足類(スカシガイ科)が示す反熱帯分布の成立史
橋本海瑠○(筑波大院・生命地球科学)・加瀬友喜・芳賀拓真(国立科博・生命史)・上松佐知子(筑波大・生命環境系)
- 16:30~16:45 O-14 高知県・浦ノ内湾のアコヤガイ殻内から得られたトウガタガイ科腹足類
伊藤颯真○(京大・院・理)・中野智之(京大・瀬戸臨海)
- 16:45~17:00 O-15 千島海溝南部・日本海溝における頭楯目腹足類の多様性と分布
佐藤宏樹○1・Manuel Malaquias2・狩野泰則 1(1 東大・大海研, 2 University of Bergen)
- 17:00~17:15 O-16 メリベウミウシ属の一種 *Melibe japonica* ヤマトメリベの再記載と、属内での系統関係
中野理枝○(公益財団法人黒潮生物研究所)・NPO 法人全日本ウミウシ連絡協議会)・徳田岳(国立大学法人琉球大学)・依藤実樹子(国立研究開発法人産業技術総合研究所)

セッション 5

- 17:15~17:30 O-17 **日本産アサリの遺伝的集団構造と殻形態の関連性**
北畠京祐○(東洋食研・東邦大)・山崎友資(東洋食研)・山崎大志(東邦大)・大越健嗣(東洋食研・東邦大)
- 17:30~17:45 O-18 **種内系統が示す気候変動への応答の差異:ゲノミクスと生態ニッチモデリングの統合**
石井康人○(東北大学大学院 生命科学研究科)・平野尚浩(琉球大学 理学部)・上島励(東京大学大学院 理学系研究科)・千葉聡(東北大学 東北アジア研究センター)・東北大学大学院 生命科学研究科)・伊藤舜(静岡大学 学術院理学領域)・香川理(筑波大学 下田臨海実験センター)
- 17:45~18:00 O-19 **キセルガイ近縁種における形態学的変異と遺伝的分化の不整合**
上島励○1・Pipithkul Supisara2・澤田直人 1,・安田仁奈 2(1 東京大学理学系研究科, 2 東京大学農学生命科学研究科)
- 18:00~20:00 **懇親会**

■5月18日(日)

9:30 受付開始(1Fロビー内)

会場: 口頭発表(10:00~11:00, 16:00~16:45) 場所:1407 教室(4F)

総会(11:00~12:00) 場所:1407 教室(4F)

ミニシンポジウム「貝類の和名をめぐって」(13:00~14:00) 場所:1407 教室(4F)

ポスター発表(コアタイム 14:00~16:00) 場所:ローズホール(4F)

展示 日本貝類学界最後の巨人 奥谷喬司先生の足跡 場所:ローズホール(4F)

セッション 6

- 10:00~10:15 O-20 **コハゼガイ(ウロコガイ科)におけるスジホシムシモドキ類との共生と隠れた種分化**
後藤龍太郎○(京都大学瀬戸臨海実験所)・四ノ宮千遥(京都大学瀬戸臨海実験所)・田中真人(和歌山県串本町)
- 10:15~10:30 O-21 **深海ウミグモ類に体表共生するエゾバイ上科の新属新種(Buccinoidea: Prosiphonidae)**
狩野泰則○1・Yuri I. Kantor2・高野剛史 1,3・Philippe Bouchet4(1 東大・大海研, 2 Severtsov Inst Ecol Evol, 3 目黒寄生虫館, 4Mus Nat Hist Nat)
- 10:30~10:45 O-22 **インド西太平洋におけるウニヤドリニナ属 *Vitreobalcis*(ハナゴウナ科)の多様性**
高野剛史(目黒寄生虫館)
- 10:45~11:00 O-23 **ニッポンブエガイ *Nobuea kurodai* Minato & Tada, 1978 の雌性生殖器系の比較形態学**
黒田啓太○・中野隆文(京都大学・理学研究科・動物系統学研究室)

11:00～12:00 総会
12:00～13:00 昼食

13:00～14:00 ミニシンポジウム「貝類の和名をめぐって」
1. 貝類の和名は何が問題なのか？:アンケート結果の報告
上島励(東大)
2. 貝類の和名特有の問題「～ガイ」
長谷川和範(国立科学博物館)
3. ウミウシの和名問題
木元伸彦(web site「世界のウミウシ」運営者)
4. 魚類学会では和名問題をどのように解決したのか？
瀬能宏(神奈川県立生命の星・地球博物館)

14:00～16:00 ポスター発表コアタイム(偶数番号)

セッション7

16:00～16:15 O-24 エゾキンチャクにおける右殻前耳と足糸湾入の成長時不連続変異
高木俊男(復建調査設計株式会社東京支社)
16:15～16:30 O-25 X線CTを用いた軟体動物の解剖学的研究
佐々木猛智○(東京大学総合研究博物館)・山崎友資(東洋食品研究所)
16:30～16:45 O-26 マダラコウラナメクジ (*Limax maximus*) を用いた新規飼料の開発
河合総一郎○・山崎友資(公益財団法人 東洋食品研究所)・小田桐亮(倶知安風土館)

16:45 閉会あいさつ

■ポスター発表

奇数番号:コアタイム 17日 13:00～15:00

偶数番号:コアタイム 18日 14:00～16:00

P-1 Convergence through miniaturisation: Low-coverage genomes recover several independent skeneimorph lineages within Trochoidea (Vetigastropoda)

Abalde, Samuel1,2○, Zardoya, Rafael2 and Kano, Yasunori1 (1 Department of Marine Ecosystem Science, Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo, Kashiwa, Japan;
2 Biodiversity and Evolutionary Biology Department, Museo Nacional de Ciencias Naturales (MNCN-CSIC), Madrid, Spain)

P-2 イシダタミ属における殻口内構造の種間および種内変異

岡村岳英○1,2・山崎大志 2(1 国際航業株式会社, 2 東邦大・理・生命圏)

P-3 ハビタットに関連するヤマトカワニナの形態的多様性

清原涼平○(関西学院大学)・澤田直人(東京大学)

- P-4 島根県大社湾と鳥取県弓ヶ浜の打ち上げ貝について
吉永亜紀子(総合研究大学院大学 統合進化科学センター 連携研究員)
- P-5 グリーンランド北西部カナック村沿岸における海産貝類の分布調査
前田息吹○1・中山智博 2,3(1 東京海洋大院・海洋資源環境学, 2 北大北極域研究センター, 3 北大院・環境科学)
- P-6 高知県土佐清水市から見出されたノシジガイ *Parastrophia japonica* とその系統的位置
穴井陸大○・狩野泰則(東大・大気海洋研)
- P-7 外来生物サキグロタマツメタの殻を利用する生物
福村龍星○(東邦大院・理)・北畠京佑(東食研, 東邦大・理)・山崎大志(東邦大院・理)・大越健嗣(東食研, 東邦大・理)
- P-8 瀬戸内海東部の砂堆で採取されたハナゴウナ科貝類
松田春菜○(徳島大・院・社会産業理工)・吉松定昭(四国貝類談話会)
- P-9 伊豆諸島・大室ダシ海穴内熱水域の腹足類相
長谷川和範○(国立科学博物館・動物研究部)・石山玄樹(国立科学博物館・分子生物多様性研究資料センター)・土田真二(海洋研究開発機構)
- P-10 2018-2019年に千葉県館山湾からドレッジにより採集された貝類
照屋清之介○(千葉中央博・海博)・寺本沙也加(岩手水技セ)・宮崎息吹(京大・農)・吉田隆太(お茶大・湾岸研究所)・黒住耐二(ウルマ自然史研究所)
- P-11 富山湾の海岸で見られる打ち上げ貝類種構成・群集構造の解析
木村元耀(富山大学理工学研究科)
- P-12 都市緑地における貝類相の長期変化: 日吉キャンパスの30年間の記録
石井晃瑛(慶應義塾大学経済学部)○・吉村太郎(東京大学総合研究博物館)・逢坂暖(東京大学総合研究博物館)・小久保真聖(慶應義塾大学法学部)・橋本翔太(慶應義塾大学理工学部)・今井宏明(慶應義塾大学理工学部)・佐々木猛智(東京大学総合研究博物館)
- P-13 小笠原諸島母島におけるエリマキコウガイビルの食性解析
續橋瑠稀(東北大学大学院 生命科学研究科)・佐藤遼祐○(東北大学大学院 生命科学研究科)・庄子恭平(小笠原環境計画研究所)・石井康人(東北大学大学院 生命科学研究科)・千葉聡(東北大学 東北アジア研究センター)・東北大学大学院 生命科学研究科)・田谷昌仁(東北大学大学院 生命科学研究科)
- P-14 DNA バーコーディングによる裸鰓目ウミウシの多様性の把握と形態的差異の探索
大瀬竜之介○・朝川毅守(千葉大学・院・理)
- P-15 アサリの貝殻模様やその変化にはどのようなパターンがあるか
石井悠介・西村直純・松浦圭吾(千葉市立千葉高等学校)
- P-16 なぜシジミの貝殻は黒くなるのか
竹本邦子○(関西医科大学)・村上昌孝(東レリサーチセンター)・上野義弘(東レリサーチセンター)・馬場大哉(東レテクノ)
- P-17 富山県山岳地における陸産貝類相の多様性
長谷部秀平○(富山大学理工学研究科理工学専攻地球生命環境科学プログラム)・柏木健司(富山大学理学部理学科自然環境科学プログラム)

P-18 西之島における貝類相の遷移

中野智之〇(京大・瀬戸臨海)・柏尾 翔(きしわだ自然資料館)・福田 宏(岡山大・農)

P-19 日本近海における周辺種分化で分岐した姉妹種の形態的類似性

大島楓子〇・山崎大志(東邦大院・理)

P-20 房総半島におけるコハクオナジマイマイとオナジマイマイ分布の推移

入村信博(千葉県立犢橋高校)

P-21 松名瀬干潟におけるフトヘナタリの生活史

塩井みなみ(三重高校)

P-22 大隅諸島種子島におけるオオツタノハの生息実態

忍澤成視(東京大学大気海洋研究所・大気海洋分析化学分野)

P-23 日本産ケムシヒザラガイ属の再検討

齋藤 寛(国立科学博物館)

P-24 イロウミウシ科アオウミウシ属の分子系統解析

林牧子〇1, 2, 4・香川理2・神澤由己2・山田彩斗2・ジョシュア・ハイツマン2, 3・深町昌司4・

中野裕昭2(1 慶應義塾大学生物学教室, 2筑波大学下田臨海実験センター, 3 広島大学生物生産学部, 4 日本女子大学理学部)

■発表等聴講時のお願い

口頭発表及びポスター発表の録画、撮影は禁止します。ただし、大会事務局が大会の記録用に撮影をすることがあります。

■ミニシンポジウム

5月18日(日)午後1時よりミニシンポジウムを開催します。大会参加者の方は参加申込不要です。奮ってご参加ください

「貝類の和名をめぐって」

和名は生物の分類群(多くの場合は種)を指す日本語の名称である。和名は学術的分野のみならず、教育など様々な分野でも広く使われており、その社会的影響力は少なくない。世界共通の生物名である学名については、国際命名規約により厳密な規律がある。一方、和名については統一的な規約がなく、問題があった場合に解決することが困難である。本シンポでは、貝類の和名に関する問題について考える。

最初に、分類学会連合からの委託で実施された貝の和名に関する会員へのアンケートの集計結果から、具体的にどのような問題があるのかを示す。次に、貝類和名に特有の「語尾にガイが必要か？」問題の経緯や現状と、分類の専門家が関与しない状況で進行した「ウミウシの和名」問題と今後の取組について報告する。最後に、標準和名について先進的な取り組みを行い、実践している魚類学会の状況について紹介する。

- 1) 貝類の和名は何が問題なのか? :アンケート結果の報告 上島励(東大)
- 2) 貝類の和名特有の問題「～ガイ」 長谷川和範(国立科学博物館)
- 3) ウミウシの和名問題 木元 伸彦(web site「世界のウミウシ」運営者)
- 4) 魚類学会では和名問題をどのように解決したのか? 瀬能宏(神奈川県立生命の星・地球博物館)

■展 示

会期中、2025年1月10日に逝去された奥谷喬司名誉会長にゆかりの標本やスケッチ、書籍、写真などを展示します。展示場所は4階ローズホール内です。

「日本貝類学界最後の巨人 奥谷喬司先生の足跡」

1995年から2010年まで日本貝類学会の会長を務められ、また膨大な論文や一般向け書籍、あるいはマスコミ出演などにより日本の貝類学の発展や普及に大きく貢献された奥谷喬司先生は、2025年1月10日に93歳で人生の幕を閉じられた。

生涯で350編以上の論文に326の新種・亜種を記載された偉大な分類学者としての一面のほか、類まれなリーダーシップと親しみやすさを兼ね備えた奥谷先生は、様々な分野で大きな足跡を残され、また人々の心の中にとどまっている。限られたスペースではあるが、ここではその一旦を紹介する。

企画:長谷川和範・齋藤寛(国立科学博物館)・土屋光太郎(東京海洋大学)・沼波秀樹(東京家政学院大学)

■発表者へのお知らせ

口頭発表の持ち時間は15分間(発表12分間、質疑応答3分間)です。時間厳守をお願いします。口頭発表用のファイルはUSBメモリーに入れて持参し、1階ロビーの口頭発表受付にお渡しください。午前中に発表する方は各日の受付開始時、午後に発表される方は昼食時にはファイルをお渡しください。発表用のPCは発表会場に設置済みです。スムーズな運営にご協力願います。

ポスター発表は4階ローズホールで行います。ポスターはホール内の所定のパネルにテープで止めてください(テープは用意します)。ポスター発表のコアタイム(奇数番号は5月17日13:00~15:00;偶数番号は5月18日14:00~16:00)を設定しますので、ご対応をお願いします。ポスターは最終日の閉会まで貼っててください。

■参加申込み

引き続き申込みを受け付けています。参加費などの詳細は日本貝類学会のホームページをご覧ください。参加申込みのGoogleフォームは5月9日(金)で閉鎖します。以降は大会当日、会場の受付で参加申込みと参加費の支払いをしてください。

事前入金がお済みでない方は、受付で参加費等をお支払ください。早期入金割引期限(4月15日まで)より後のお支払いは、理由のいかんに関わらず参加費・懇親会費ともに通常額となりますので、ご注意ください。

参加費等の領収証は受付時にお渡しします。

■懇親会

会場:東京家政学院大学キャンパス内 ローズホール(4階) 日時:5月17日(土)18:00~20:00

引き続き参加申込みを受け付けています。どうぞ奮ってご参加下さい。

各地名産品の差し入れを歓迎します。当日、受付でお預けください。

引率の教員や保護者が懇親会に参加する場合には、同伴の高校生以下の参加者は無料とします

■参加キャンセルに伴う参加費等の返金の取扱い

参加費、懇親会費、弁当代を事前入金されたあとで大会への参加をキャンセルされる場合、5月16日(金)までのキャンセルは、合計額から振込手数料を差し引いて銀行振込により返金いたします。返金処理は大会終了後になります。キャンセルのお申し出の際に<銀行名・支店名・口座種別・口座番号・口座名義>をお知らせ下

さい。なお、5月17日(土)以降のキャンセルは返金いたしません。

■ 昼 食

休憩室(1303 教室)もしくはローズホール(4 階)をご利用ください。弁当を予約された方は、受付時に昼食引換券をお渡ししますので、昼休みにローズホール内の弁当配布所で弁当と引き換えてください。会場近くにコンビニや飲食店がありますが、飲食店はオフィス街の為に日曜日に閉店している場合が多いので、ご注意ください。

■ その他

敷地内は、全面禁煙です。中学校・高等学校もごさいますので、ご遠慮ください。

1号棟(会場の棟)1~4階以外への立ち入りはご遠慮ください。

■ 会場へのアクセス(大学ホームページ <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/>)

- ・市ケ谷駅(JR 中央線・総武線, 東京メトロ有楽町線, 東京メトロ南北線, 都営地下鉄新宿線)下車, 徒歩約8分(地下鉄A3番出口)(注意:JR中央線快速電車は停車しません)
- ・半蔵門駅(東京メトロ半蔵門線)下車, 徒歩約8分(5番出口)
- ・九段下駅(東京メトロ東西線, 都営地下鉄新宿線)下車, 徒歩約12分(2番出口)

※駐車場はありませんので、公共交通機関を利用してください。

